

宇宙から考える応用物理

衛星技術の進歩・普及により、宇宙飛行士に代わって衛星システムがその視点を我々に届けてくれる時代が来た。地球をまさに「グローバルに」「リアルタイムに」見ることができ、身近な情報としてどのように活用するかを考える時である。シンポジウムでは、宇宙産業を支える応用物理の観点から、宇宙空間で使えるデバイスとその課題、宇宙における熱の課題、IoT インフラとしての衛星システム、画像情報システム、宇宙デブリ除去等を取り上げ、宇宙関連技術の持続的な開発と産業応用の未来を議論する機会としたい。

日時 2020年9月10日 13:30-17:15

場所 (オンライン開催予定)

開催挨拶 平野嘉仁 (応用物理学会副会長 / 三菱電機)

基調講演 地上・船舶・航空機・衛星観測に基づく地球環境モニタリングとその将来展望
三枝信子 (国立環境研究所地球環境研究センター センター長)

第 1 部：極限環境における課題

招待講演 不揮発 FPGA の宇宙応用

阪本利司 (NEC システムプラットフォーム研究所)

招待講演 宇宙機の熱設計と熱制御材料

太刀川純孝 (宇宙航空研究開発機構 (JAXA))

第 2 部：「宇宙から地球を見守る」システムと応用の広がり

招待講演 赤外線イメージセンサーの開発とその展開

佐竹徹也 (三菱電機株式会社 先端技術総合研究所)

招待講演 目指すは宇宙の「民主化」：超小型衛星コンステレーションが変える宇宙利用

中村友哉 (株式会社アクセルスペース)

招待講演 アストロスケールの宇宙ゴミ (スペースデブリ) 除去ビジネス

伊藤美樹 (株式会社アストロスケール)

閉会挨拶 豊田晴義 (インダストリアルチャプター代表 / 浜松ホトニクス)